

今月の

“心にひびく言葉”

将棋棋士 羽生 善治 の言葉

(1970年9月27日～)

羽生善治は日本を代表する将棋棋士の一人。小学校1年生のとき、将棋の駒の動かし方を覚え、将棋に熱中する様子を見た母親が、週末の将棋道場に通わせる。それをきっかけに棋力が急速に向上し、小3で初段、小4で四段、小5で五段、中学生になると史上三人目の中学棋士となる。また、18歳のときには将棋大賞の最優秀棋士賞を史上最年少で受賞した。その後も強さは群を抜き、通算タイトル獲得数歴代一位タイを誇る。このように少年期から日本の将棋界のトップ棋士と真剣勝負を繰り広げる中で、「少しでも前に行く意欲を持ち続けている人は、たとえ人より時間がかかっても、いい結果を残しているのである。」と実感した際の言葉である。

やっっても、やっっても
結果が出ないからと
諦めてしまうと、
そこからの進歩は
絶対にならない。

2026-5